



西澤 裕之

Q、新たに宅地を造成し分譲をする考えがあるか。

A、市街中心地の民地などを有効活用してほしい。

Q、人事異動の考え方や基準は。

A、何年といった判断ではなく、適材適所に配置する。

Q、グループ制の機能が発揮できているとは思えないが。

A、少人数で最大の効果が得られるよう業務している。

質問 平成17年度に行った宅地分譲からこの間、新たにその需要があると聞くが。

町長 現時点では考えていない。市街地に空き地が点在している状況や町並みを考慮すると民地の有効活用を考えると、更に大勢の方の要望があれば再度町有地の中で検討することも考える。

の仕事に追われている状況でグループ内の情報共有ができていないのでは。

町長 少ない職員の中ではグループ制でやっていくことが一番望ましいと思う。

副町長 広く浅く行政能力を身につけて、担当者がいない場合でも住民に対応していけるようにする。

質問 自律プランの計画よりも職員の数削減されているが今の状況をどう考えているか。

副町長 類似団体と比較するとまだ多い状況にあるが、事務職的には限度にきていると思う。民間の活用や雇用のあり方を検討し、改めて策定する行革計画プランの中で議論していきたい。

質問 職員の数減り個々



役場庁舎 1階風景



吉原 哲男

Q、基幹産業の酪農UPUPUP

質問 (現状) 町長は日頃から幌延町の基幹産業は酪農と言っているが、最近の酪農情勢は非常に厳しい状況にあります。農家戸数、乳牛、牛乳の量が減少の一途をたどる事が予想されるがこの事をどう考え、どのような対策を講じるのか。

町長 (対策 大変厳しい状況と認識している。対策としては、生産基盤の整備を通じて経営の安定を図り、農協をはじめとする関係機関と協議、協力しながら、生産性の高い酪農の確立を図る。

質問 (将来の展望) 町長は幌延町の酪農について、将来どのような形が望ましいのか、またどのような展望を描いているのか。

町長 何と云っても後継者問題が重要である。ここ数年離農者が増えていることもあり、その対策として法人化を検討しているのも一つの手法又問寒別で行われているTMR(完全混合飼料)、これに刺激され他の農家も、大型農業経営に徐々に近づいて来ている。今後農協からいろいろな要請があればこれに添えていきたい。



齊賀 弘孝

Q、農協も宗谷総合振興局が望ましいか。

A、民間の経済である農協の考えにお任せする

質問 支庁制度改革が、町民や経済団体、そして観光にどう今後振興発展に寄与

するものと考えてるか。

町長 町民の生活圏や医療は稚内市を中心に結びつき

質問 (過重労働の解消) 最近乳牛の増加に伴う過重労働が指摘されているこれらの解消のため、育成センターの建設等の考えはないのか。

町長 町独自で考えることが果たしていいのかと云う考えがある。農協で農業振興計画もできたとし、農協内の農業酪農支援対策委員会もあるの、理事会の総意の下で計画書等を町の方に提出されるよう伝えている。

質問 (今後の取り組み) 育成センター、TMRセンターの用途を今任期中につけていただきたいと思うが。

町長 今後農協と少し具体的に協議しながら関係機関と相談しながら進めていきたい。

が強いと認識している。これに行政圏が一致することで一体感や利便性が向上するし、経済面では酪農を基幹産業とし、土地改良技術流通などへ波及効果、留萌と宗谷を繋ぐ地理的条件を活かし、成長が期待できる。観光面では宗谷圏になる事で連携・交流が深まり地場